

毎週日曜発行
2025 3/9

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



地球のためにできること

ミツロウラップで環境に配慮



宮城県丸森町で採れる蜜ろうから作ったミツロウラップ「tsumtsum mi (ツツミ)」が繰り返し使え、環境に配慮していると好評なんだって。国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の

きょうのテーマ

繰り返し使えて保湿性も

12 つくる責任
つかう責任



12番目「つくる責任、つかう責任」につながる取り組みだよ。

(8面に関連記事)

ミツロウラップは、ミツバチが巣を作る際に分泌する天然のろうを、布に染み込ませたラップです。温めると柔らかくなり、冷えると固まるろうの性質を生かし、器のふたをはじめ、野菜やパンを包んで保存できます。洗って乾かすと、半年から1年ほど繰り返し使える優れたものです。

丸森町の自然をイメージした草花や動物など、かわいらしいデザインも人気の理由です。

個人事業主として営



む「マメムギモリノナカ」で、ツツミを作り、販売する山下久美さん(43)は「宮城にゆかりのあるデザイナーに依頼するなど、地域色を大切にしている」と言います。

「おにぎりにミツロウラップを使うようになったから、樹脂製ラップを捨てる量が減った」「保湿性が高く、野菜や果物の日持ちがいい」。利用者からは、こんな声が届

くそうです。



山下さんがツツミの販売を始めたのは2019年。自然豊かな丸森町に引かれ、仙台からの移住と起業を考えていたところ、地元の養蜂園が蜜ろうの使い道を探していると聞き、試行錯誤の末に事業化しました。

20年に地域の魅力を伝える賞品を発掘する「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー2019」で最高賞の地方創生大賞に輝きました。受賞をきっかけに販路も広がり、現在はネットをはじめ仙台市内の百貨店や土産店で買えます。

「町に常設のワークショップを作り、たくさんの人に楽しんでもらいたい」。ミツロウラップを生かし、地方の暮らしや魅力を伝えたいという山下さんの夢は大きく広がっています。



「tsumtsum mi」で器を包む山下さん。温かみのあるデザインが目を引きます。

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇11日(火) 東日本大震災から14年
岩手、宮城、福島各県に大きな被害をもたらした大震災から14年です。最大震度7、地震の大きさを示すマグニチュードは9.0。日本の観測史上最大でした。この間、被災地に震災遺構が整備されています。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 ミツロウラップを作ってみよう